

2013年3月28日

海上自衛隊航空集団司令官
海将 重岡 康弘殿

厚木基地爆音防止期成同盟
委員長 藤田 榮治
第四次厚木爆音訴訟原告団
団長 藤田 榮治
代表 岡本 聖哉
神奈川平和運動センター
代表 宇野 峰雪

原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

代表 岡本 聖哉
神奈川平和運動センター
代表 宇野 峰雪

固定翼哨戒機P1の厚木基地配備に対する抗議文

ジェットエンジンを主たる動力とする固定翼哨戒機P1が3月29日に厚木基地に配備されるとの情報を得ました。わたし達はこれについて、以下にあげた理由で反対の意を表明し、南関東防衛局に配備しないよう要請してきましたが、それが聞き届けられず配備に至ったことはまことに残念であり、強く抗議をします。

1971年、海上自衛隊移駐時にジェット機を導入しないとした国の通知は、騒音被害と事故に対する不安に対して、住民に配慮したものでした。

今回の配備にあたり、騒音については現哨戒機P3Cよりも小さいとする報告がされています。しかし、たとえば85デシベルから80デシベルになったからと言って、それが騒音であることには変わりはありません。騒音源が存在する限りわたし達はそれを受け入れることはできないのです。

また、安全性についても進歩している、今回も不具合について対策を講じたと報告されていますが、軍事部門での運用の中で、今後、何らかの事故あるいは故障などが起きたときに、情報が即座に公開され、飛行の中止も含めて対策がされるとはとても思えません。

さらに今回、配備の必要性について、「周辺国海軍の活動の活発化などの安全保障環境」が理由にあげられています。それについては外交上の努力により改善されるべきものであり、今回のように、今までの哨戒機よりも性能を向上させた機種を導入することは、周辺国をいたずらに刺激し緊張を高めるだけです。

わたし達は、平和で静かで安全な空のもとで生活したいと思っています。周辺の自治体も、平和都市宣言を掲げ、基地の縮小・返還を求めています。その理念に反するP1の配備に対し、ここに強く抗議し撤回を求めます。